

優秀賞 高学年の部

連絡ノートと、おにぎり(一)

福岡県
北九州市立青山小学校 四年

梅本 浩毅

「ただいまっ。」

学校から帰って、だれもない静かな部屋に向かつて、ほくは大きな声でそう言う。そして急いでリビングのテーブルの上に置いてある、お母さんからの「連絡ノート」を読む。

そのノートには日付けとおかえりの文字とカエルの絵が書いてあつて、学校から帰ったほくが困らないようにいろいろなことがお母さんの字で書いてある。カエルの絵は無事に帰つての意味らしい。いつも同じことの続きに、その日のほくの予定などが、簡単な絵といっしょに書いてある。お母さんが「毎日、同じことやけ書かんでも分かるやろ。」と、ほくに言うけど、ほくはそのノートに書いてあるお母さんの字の「おかえり」とカエルの絵が、本当にお母さんが「おかえり」と言つて、出むかえてくれている気がするのと、忘れていくことの確認のため、

「わかっとおけい、書いてつて。」
と、毎日お願いしてしまふ。

お母さんはほくの通つている小学校のとなりにある保育園で、赤ちゃんクラスの保育士の先生として働いている。一度だけ、ほくが体育館のそばを走っている時、

「ひろきーっ。」

と大きな声が聞こえた。びつくりしてほくがふり返ると、お母さんが保育園の二階のテラスから手をふっていたことが

あつた。ほくはうれしくて、お母さんに負けないように手をふり返した。

学校のろう下の窓から、お母さんがお仕事している保育園が見える。お母さんの姿は見えないけど、それだけで安心する時がある。ほくは週に二回、スイミングスクールに通つている。級が上がるにつれ、泳ぐきよりも長くなつて、おなかがペコペコになつてふらふらすることが多くなつた。お母さんにそう話すと「おにぎり、作つておか。お菓子やパンよりずつと、はら持ちがいいよ。」と、言つた。ほくはごはんより、パンの方が断然に好きだつたので、ちよつと考えたけど連絡ノートのように、またまた「じゃあ、お願い。」

そう、たのんだ。
お母さんは、ほくの大好きな鮭をほくしてごまのたつぷり入つたおにぎりと、わかめとごまのりまきおにぎりをこずつ作つてくれている。ごはんがあまり好きじゃなかつたほくなのに、おなかがあつていらないからなのか、

お母さんが作つてくれるおにぎりがおいしいからなのか、わかれないけれどわりと大きな二このおにぎりをペロリと食べてしまう。お母さん、おこるとすこくこわいけど、ほくががんばった時は、たくさんほめてくれてありがとう。ほくが大きくなつたら、今度はほくが作ったおにぎりをいっしょに食べながら、連絡ノートを読んで思い出を話そうね。